倉吉アート探訪

KURAYOSHI ART EXPLORATION

アンディ・ウォーホル《ブリロ・ボックス》1968年　シルクスクリーン、板　鳥取県立美術館

©2025 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Licensed by ARS, New York & JASPAR, Tokyo G3779

待望の鳥取県立美術館開館

OPENNESS!

― 誰もに開かれた美術館へ

鳥取県立美術館が2025年、倉吉市に誕生！県立の美術館としては全国で〝ほぼ最後〟となるが、鳥取県民にとっては悲願が実現した形だ。

建物は、「建築のノーベル賞」と呼ばれるプリツカー賞を受賞した槇文彦（2024年逝去）が率いた槇総合計画事務所が担当。1万7892平方メートルの敷地に3階建て延べ1万598平方メートルの建物が建つ。

1階にショップやカフェ、キッズスペース、県民ギャラリーなどが配置され、2階にはコレクションギャラリーが、3階には企画展などを開催する広大なギャラリーがある。

建物を特徴づける大きな要素が中央の「ひろま」。人々の交流の場になることを想定して設けられ、木質の内装を施した3階までの吹き抜け空間が広がる。「えんがわ」を介して隣接する国史跡・大御堂廃寺跡とつながり、一体感を実現している。

また2階には見晴らしの良いテラスを、3階には展望テラスを配置し、訪れた人の憩いの場となる。

鳥取県立美術館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM OF ART

INFORMATION

〒682-0816 鳥取県倉吉市駄経寺町2-3-12
TEL 0858-24-5442（代表）
《開館時間》9:00〜17:00
《休館日》月曜日、年末年始（12月29日〜翌年1月3日）ほか
※月曜日が祝日の場合は翌平日を休館日とします。
※休館日は変更となる場合があります。

鳥取県立美術館 コレクション

COLLECTION

1

© 2025 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. /
Licensed by ARS, New York & JASPAR, Tokyo G3779

2

3

4

5

6

1.アンディ・ウォーホル《ブリロの箱》1968年　2.前田寛治《棟梁の家族》1928年　3.ギュスターヴ・クールベ《まどろむ女(習作)》1852年頃　4.菅楯彦《神倉秋景》1962年　5.中ハシ克シゲ《Papa in College》1986年　6.辻晉堂《拾得》1958年　7.佐伯祐三《オーヴェールの協会》1924年

7

鳥取県はこれまで「鳥取県にゆかりのある作家や、その作家とつながりのある作家の作品」を基本に国内外の優れた美術品を収集、所蔵しており、多くが県立美術館のコレクションとなる。

鳥取県にゆかりのある作家としては洋画家の前田寛治が代表的。代表作《棟梁の家族》など油彩47点を含む全国屈指の作品群を所蔵し、前田と交流のあった佐伯祐三の《オーヴェールの教会》、前田が研究したギュスターヴ・クールベの習作《まどろむ女》なども所蔵。そのほかに彫刻家の辻晉堂、板画家の橋本興家、写真家の塩谷定好、植田正治、日本画家の菅楯彦、小阜川秋聲などの作品もコレクションしている。

国内外の作家による優れた作品のうち、購入に際して話題となったのがアンディ・ウォーホルの《ブリロの箱》5点だ。ウォーホルは〝ポップアートの旗手〟とされる作家で、購入価格の妥当性を含めて議論となった。日本画では「奇想の絵師」とも言われる伊藤若冲の《花鳥魚図押絵貼屏風》なども購入しており、注目されそうだ。

また同時代の美術の動向を示す作品も多く、鳥取県出身の彫刻家・中ハシ克シゲらの作品など屋外に設置されるものもある。

館長インタビュー

INTERVIEW

―鳥取県立美術館開館の意義は。

特に若い人にとって意義が大きいのではと感じています。

わたし自身、初めて美術館を訪れたのは大学生になって県外に出た時が初めてでした。美術館は人が自由に集い、自由に過ごすことができる場所。鳥取県立美術館は1階から3階まで自由に出入りできるゾーンが多く、こんなに自由な場所はない。若い人たちには多様な使い方ができる自由な場所として親しんでほしい。

―目指す姿として「OPENNESS!」を掲げておられます。

建築自体もそうですが、内容としても開かれた美術館であることが必要ではないかと、「開かれた」ことを示すOPENNESSを掲げました。

美術館開館に向けて約10年間議論を重ねましたが、いつもオープンに議論してきました。《ブリロの箱》を購入した経緯についても公開し、アンディ・ウォーホルや《ブリロの箱》を知らなかった人も知ることができたのではないかと思います。ブランドワードとして象徴的な言葉だと思います。

―《ブリロの箱》以外の収蔵品についても教えてください。

鳥取県はこれまで洋画、日本画、彫刻、写真などのジャンルや時代を問わず、何かに特化することなく幅広く作品を収集してきました。郷土ゆかりの作家の作品は数多く所蔵しています。

例えば前田寛治については全国で最もたくさん所蔵していますが、鳥取県立博物館では展示スペースが足りず、多くを展示することができませんでした。前田への評価が同時代の作家と比べて低いのは、展示が十分でなかった影響もあるのではと思います。常に展示してあれば評価も変わってくるのでは。もっと評価されるべき作家ですので、県民の皆さまも誇りにしていただきたい。

―今後の企画展などの展示方針は?

年間に4回の企画展を企画展示室で実施するほか、五つのコレクションギャラリーで常設展示を行います。

年4回の企画展のうち1回は「まんが王国」鳥取らしくポップカルチャーを扱います。コレクションギャラリーは展示室ごとにジャンルを決めて作品を展示します。鳥取県立博物館での展覧会も年1回は開催しますし、初年度は県民ギャラリーの予約もほぼ埋まっています。

―運営上の特徴は?

美術の学芸員はわたしを含めて7人いますが、それ以外に普及・教育担当の学芸員を3人配置しています。3人は子どもたちに美術を通じた学びを支援する「アート・ラーニング・ラボ」や、県内の全小学4年生を美術館に招待する事業などに取り組みます。

PFI事業として民間の知恵も借りながら運営するため、ショップやカフェなどでは開館に向けて商品やメニューの開発を進めています。楽しみにしてほしいですね。

―美術館を訪れる人にメッセージを。

年間20万人の来場を目指しています。美術鑑賞ではない人にもたくさん訪れていただきたい。特に地域の人、学校帰りの高校生などには普段使いしてほしい。美術館は敷居が高いと感じる人も多いと思いますが、「美術館に来たら楽しい」と思ってもらえるような取り組みも進めたい。

県民待望の美術館が遂にできます。ぜひ美術館に足を運んで美術を堪能してほしい。訪れるのを習慣にする人が増えるといいと思います。

鳥取県立美術館 館長

尾﨑 信一郎 Shinichiro OSAKI

1962年鳥取市生まれ。92年、大阪大学文学部大学院芸術学研究科博士課程単位取得修了。兵庫県立近代美術館学芸員、国立国際美術館研究員、京都国立近代美術館主任研究官として勤務した後、2006年より鳥取県立博物館勤務。著書に『絵画論を超えて』(1999年、東信堂)など。ほか共著多数。企画した主な展覧会として「重力−戦後美術の座標軸」(1997年、国立国際美術館)、「生誕100年　彫刻家　辻晉堂展」(2010年、鳥取県立博物館ほか巡回)ほか多数。

展覧会

EXHIBITION

鳥取県立美術館では鳥取県ゆかりの、あるいは国内外のさまざまな美術・文化を紹介する企画展を開催する。「まんが王国とっとり」をうたう鳥取県だけに、県出身の漫画家・水木しげるの作品を集めたものなどポップカルチャー関連の企画展も毎年開催される予定だ。開館初年度は4回の企画展を予定する。開館記念の企画展は「アート・オブ・ザ・リアル」(6月15日まで)。見えるままの「リアル(現実)」だけではなく、美術家たちが挑戦した「何がリアルなのか」を追求した展示で、所蔵品のほかパブロ・ピカソ、高橋由一、鈴木其一、森村泰昌、ゲルハルト・リヒターなど国や時代、ジャンルを超えた名だたる作家のさまざまな作品を展示する。

7月19日から8月31日までは「水木しげるの妖怪 百鬼夜行展〜お化けたちはこうして生まれた〜」を開催。水木所蔵の妖怪関係資料と共に妖怪画100点以上を公開する。江戸時代の多彩な花鳥画を中心に据えた企画展「The花鳥画 ―日本美術といきものたち―」は10月11日から11月24日まで。伊藤若冲の≪花鳥魚図押絵貼屏風≫が収集後初公開される。2026年2月7日から3月22日までは、新進気鋭のアーティストを招いて企画展「CONNEXIONS ―コネクションズ―接続するアーティストたち―」を開催。このほか所蔵作品を紹介するコレクション展は2カ月半ほどで作品を入れ替えて展示。小規模な特集展示なども開催するほか、県民ギャラリーは広く県民に開かれ創作活動の発表の場などとして使われる。

© 水木プロダクション

倉吉 アートの系譜

LINEAGE OF ART IN KURAYOSHI

倉吉の芸術文化、その歩みを探る！

前田寛治《J・C嬢の像》1925年★

前田寛治 (1896~1930)

倉吉市の隣、北条町（現北栄町）に生まれ、中井金三の教えを受けて東京美術学校で藤島武二らに師事。フランスに渡ってギュスターヴ・クールベの写実主義を研究し、帰国後は帝展で活躍するなど日本の美術史に大きな足跡を残したが、33歳で早世した。

中井金三《バラ》1945・55年★

砂丘社

倉吉の芸術・文化を語るうえで外せないのが砂丘社。東京美術学校（現東京芸大）卒業後に倉吉中学（現倉吉東高）の教師を務めていた中井金三を中心に、前田寛治、河本義行（緑石）、石亀忠利、増田英一ら絵画や文芸、音楽などの芸術を志す若者たちによって1920年に設立された芸術団体で、さまざまな芸術活動を展開した。前田、河本が30代で早世するが、波田野幸治、小椋繁治、米本一郎らも参加し、倉吉の芸術が育まれた。

倉吉トリエンナーレ

倉吉博物館では「倉吉トリエンナーレ」と呼ばれた美術賞が1987年に創設され、洋画の「前田寛治大賞展」、日本画の「菅楯彦大賞展」、「倉吉：緑の彫刻賞」の三つが、それぞれを3年ごとに開催する方式で行われていた。「前田寛治大賞展」は前田寛治を讃えて開かれ、彼が追い求めた写実主義をテーマとする指名応募制の公募展。「菅楯彦大賞展」は、倉吉に疎開していたこともある日本画家・菅楯彦にちなんだ日本画の指名公募展。「緑の彫刻賞」は、実績のある彫刻家を選定して作品制作を依頼するオーダーメイド方式で行われていた。彫刻賞は現在不定期開催となっているが、前田寛治、菅楯彦両大賞展は継続され、受賞作が倉吉博物館などに所蔵されているほか、彫刻はさまざまな場所に設置されてまちを彩っている。

左：第 7 回前田寛治大賞　島村信之《潮騒》2007 年 ★
右：第 11 回前田寛治大賞　石田淳一《うつろふ》2023 年 ★

『砂丘創生之記』表紙 ★
（砂丘社同人誌）

★が付いているものは倉吉博物館所蔵

民藝 MINGEI

長谷川富三郎《三徳の杉》★

ヒメユリの塔の前に座る伊藤宝城夫妻

高木啓太郎《草刈》★

吉田たすく《四季》★

吉田たすく

長谷川富三郎

伊藤宝城《ヘルシンキオリンピックの競泳》★

民藝とは？

1925年頃に思想家の柳宗悦らによって作られた「民衆的工藝」の略語であり、日々の生活の中で使われる、無名の職人によって作られた手仕事の品々のことを指す。それまで「下手物」と呼ばれていた日常的な手仕事の品々に美しさを見出した。

倉吉の芸術を語るうえで「民藝」も重要なキーワードとなる。

砂丘社同人でもあった長谷川富三郎は、鳥取市の医師で民藝運動家の吉田璋也と出会って民藝運動に参加。板画家・棟方志功との交友から板画を始め、数多くの板画作品を残した。長谷川作品は市内の民家などでも親しまれている。

長谷川の周囲には写真家の高木啓太郎、画家・徳吉英雄、染織家・吉田たすく（本名・祐）、陶芸家・生田和孝らもいた。

また、医師で彫刻家、詩人でもあった伊藤宝城（本名・博）は吉田璋也などとの交流の中で浜田庄司、柳宗悦、河井寛次郎、棟方ら民藝運動の中心人物たちとも関わった。

戦後、倉吉で開催された「くろぼく社 第一回創作郷土玩具展」にて長谷川富三郎が車のついた因伯牛、吉田たすくが尾ふり虎の張子をそれぞれ制作。のちに、はこた人形などを制作する備後屋へ意匠が譲られ、現在も白壁土蔵群にある「はこた人形工房」によって受け継がれている。（左から「はこた人形」、「狐面」、「因幡の白兎」、「起き上がり」、「因伯牛」、「虎」　※全て「はこた人形工房」制作）

COLUMN

街に刻まれる文化の痕跡

鳥取短期大学教授 渡邊太

昭和28年に棟方志功が絵付けをした上神焼の皿
（小川氏庭園 環翠園　企画展「小川家の昭和28年」より）

倉吉の街には郷土の板画家・長谷川富三郎の板画が点在し、街の風景をかたち作っています。長谷川は小学校に勤めながら民藝運動の発展に尽力しました。戦前に、民藝の創始者・柳宗悦が長谷川に「倉吉絣はどうなっていますか？」と尋ねたことがきっかけとなり、当時ほとんど廃れていた倉吉絣の保存と技術の継承が実現しました。たびたび倉吉を訪れた棟方志功は、油絵を描いていた長谷川に板画を勧め、上神焼の皿に絵付けし、同人誌に寄稿するなど地元の作家たちと交流を深めました。レジェンドたちの足跡はいまも街に自然な形で残されており、その控えめな佇まいがこの街らしさを感じさせます。文化の痕跡を見つけることも、倉吉の街歩きの楽しさと言えるでしょう。

明倫AIR2020展示（倉吉博物館）

明倫AIR

明倫AIR（アーティスト・イン・レジデンス）は、倉吉市明倫地区にアーティストが一定期間滞在し、地域住民などと交流しながら作品制作を行う取り組み。2010年に始まり、これまでに若手を中心に多くの国内外のアーティストが活動している。

倉吉博物館
倉吉歴史民俗資料館

（倉吉市仲ノ町）

打吹山の中腹・椿の平に1974年に開館した市立博物館で、さまざまな美術展などが開かれ、市民の文化活動の拠点にもなっている。博物館は市ゆかりの前田寛治、菅楯彦、中井金三、生田和孝、重要無形文化財「木工芸」保持者（人間国宝）の大坂弘道らの作品を多く所蔵・展示するほか、国の重要文化財を含む考古・歴史資料なども所蔵されている。歴史民俗資料館は、倉吉の発展の基盤となった稲扱千歯や倉吉絣、郷土玩具も展示している。

倉吉市文化活動センターリフレプラザ

（倉吉市住吉町）

文化団体の活動拠点などとして活用され、会議や研修、楽器の練習などにも使用できる。1階にギャラリーが設けられ、地元作家などの発表の場として使われている。

原口典之《Oil and Water》2003年
（アート格納庫M）

まちなかアート
（日本料理 飛鳥）

アート格納庫Mとまちなかアート

（倉吉市秋喜）

アート格納庫Mは倉吉市街地西方の工業団地内にある私設ギャラリーで2024年オープン。割りばしや厨房機器などを扱う丸十が運営する。空き倉庫を改修した建物に美術家・原口典之の大型彫刻作品などを常設展示し、若手作家を中心にした企画展なども行う。また、市内を中心にしたホテルや飲食店、事業所などでアート作品を展示する「まちなかアート」活動も展開している。

周辺のアート関連施設

三朝バイオリン美術館

塩谷定好写真記念館

倉吉に隣接する三朝町にある「三朝バイオリン美術館」は日本でも珍しい、弦楽器の製作と演奏をテーマにした美術館で、バイオリン製作学校も併設されている。
倉吉市の西側、琴浦町にはこの地が生んだ世界的写真家・塩谷定好を讃える「塩谷定好写真記念館」がある。塩谷の生家でもあり明治時代に建てられた廻船問屋の建物を活用しており、生涯山陰で暮らし、作品を制作した塩谷の作品が展示されている。

みらいアートギャラリー

（倉吉市駄経寺町）

エースパック倉吉未来中心には1階と2階に絵画などの展示スペース「みらいアートギャラリー」が設けられ、県内の個人やグループの作品が展示される。（写真："ポップカルチャーな!!"レコジャケ展 2025年2月）

緑の彫刻プロムナードと野外彫刻

旧国鉄倉吉線打吹駅跡から上灘駅跡にかけての線路跡が「緑の彫刻プロムナード」として整備され、「倉吉：緑の彫刻賞」受賞作などを中心に多くの彫刻作品が展示されている。東京藝大学長などを務め文化勲章受章者の澄川喜一、同じく文化勲章を受けた淀井敏夫などの10作品がある。

上：内田晴之《異・空間92-2》
下：手塚登久夫《月に吠える'94》

市内にはこのほか倉吉博物館周辺、倉吉パークスクエア、ＪＲ倉吉駅周辺などにも野外彫刻が数多く設置され、倉吉大橋の親柱には澄川らの作品が設置されている。

左：澄川喜一《こっとい》
（倉吉大橋西詰親柱）
右：薮内佐斗司《火伏せ童子と家守》
（鍛冶町駐輪場）

倉吉アートスポット

倉吉は長い歴史と伝統が息づき、その中で多くの芸術も育まれてきた。
市内にはギャラリーなどアートの拠点が存在し、
まちなかには野外彫刻が数多く置かれて市民生活に潤いをもたらしている。

コミュニティプラザ百花堂

（倉吉市宮川町）

眼鏡店・ルネックスが倉吉本店内で運営するギャラリー。絵画、写真、陶芸、書、工芸品など、地域の作家や愛好家の発表の場となっており入場無料。

くらよしアートミュージアム無心

（倉吉市魚町）

旧国立第三銀行倉吉支店の蔵を改装したギャラリー。障がい者を中心に地元アーティストの作品などを展示する。

倉吉 工芸の精華

倉吉では歴史や風土、文化に根差した伝統工芸が盛んで、現在も数多くの作家らが新たな文化を生み出している。現代のライフスタイルにも取り入れられる工芸品も多く、観光客にも人気となっている。

THE ESSENCE OF CRAFTMANSHIP

技術に宿る美、暮らしに根差す温もり

★が付いているものは倉吉博物館所蔵

《蓮弁唐草透香盤》1991年 ★

人間国宝・大坂弘道

倉吉市出身で重要無形文化財「木工芸」保持者、いわゆる人間国宝となったのが大坂弘道。美術教師をしながら制作を続けた異色の経歴を持つ人間国宝で、高度な技法を駆使した正倉院宝物の模造も手掛けた。錫嵌荘（すずがんそう）など細密で華麗な装飾を得意とした。作品のほとんどは倉吉博物館に所蔵されている。倉吉市名誉市民。

民芸木工

鳥取市の医師で自ら「民藝のプロデューサー」を自認した吉田璋也。吉田のプロデュースで発展した鳥取民芸木工を継承するのが福田豊だ。父・祥（あきら）は吉田の信頼が厚く、実用性と美しさを兼ね備えた木工品を数多く制作した。豊も父と共に20代から制作に取り組み、父亡き後は一人で鳥取民芸木工を守り続けている。

鳥取民芸木工
福田豊《新作民藝椅子》★

柳宗悦が木喰上人の中でも傑作と讃えた「秋葉大権現」（倉吉市八屋 秋葉堂にて）

木喰仏 もくじきぶつ

江戸時代の遊行僧として日本各地におびただしい仏像を残した木喰上人。倉吉には傑作として名高い木造・秋葉大権現のほか、木造の稲荷像2体が残る。（いずれも県指定保護文化財）

1

焼き物の郷

倉吉市街地の西に位置する社地区周辺に数多くの窯元が集まり、さまざまな作品が生み出されている。市内には福光焼、国造焼、上神焼上神山窯、上神焼、玉伯焼、倉吉焼八幡窯などがある。

2

3

4

5

6

1.国造焼　2.倉吉焼八幡窯　3.福光焼
4.上神焼上神山窯　5.玉伯焼　6.上神焼

梅奴に幾何文 ★

伝統的建造物群保存地区にある「倉吉ふるさと工芸館」ではさまざまな倉吉絣の製品が販売されているほか、資料の展示や織り機の見学、絣コースターの製作体験も可能。

倉吉絣と染織

倉吉絣は江戸時代末期に始まったとされる木綿の織物。技巧を駆使した絵絣が評判を呼び、明治時代には稲扱千歯と並ぶ特産品として全国に広まった。

その後、高度な織りである「風通織」などは技術も失われてしまっていたが、染織家の吉田たすくが調査・研究の末に復活させた。

倉吉絣はさらに福井貞子や、吉田の息子で技法を受け継いだ公之介らを中心に研究・復興が続けられ、「倉吉絣保存会」も結成されて伝統が受け継がれている。後進育成のために鳥取短大（福庭）には絣美術館と絣研究室が、伯耆しあわせの郷（小田）には織物教室が設けられた。倉吉ふるさと工芸館（東仲町）では倉吉絣の製品が展示販売され、機織りの実演も見られるほか絣コースターの制作体験も。倉吉観光MICE協会による「絣でまち歩き」や「絣でアート」ツアーもある。

染織作家としては鷲見早余子、古澤順子らもいる。

倉吉パークスクエア

興和紡績倉吉工場が撤退し、その広大な跡地を市などが購入して整備されたのが倉吉パークスクエア。多目的ホールを備えた県立の「エースパック未来中心」、梨をテーマにした博物館「エースパックなしっこ館」、倉吉市立図書館などが入る倉吉交流プラザなどがあり、あべのハルカス（大阪）などを手掛けたアメリカの建築家シーザー・ペリらが設計を担当した。特に目を引くのが木の骨組みとガラスを組み合わせた高さ42メートルの吹き抜け空間を持つ未来中心アトリウム。イベント空間、人々の憩いの場などとして利用されている。

三徳山

GREENable HIRUZEN

周辺地域にも

倉吉市の外にも見る価値のある建物は多い。三朝町の三徳山に現存する国宝の三佛寺奥院（投入堂）。平安時代に建てられた仏堂で、険しい行者道を登った先の絶壁のくぼみに建ち、「日本一危険な国宝」とも呼ばれる。現代の建築では、倉吉市と県境を挟んで隣接する岡山県真庭市蒜山高原に2021年にオープンした「GREENable HIRUZEN（グリーナブルヒルゼン）」がある。国立競技場などを手掛けた隈研吾が設計した木造建築。特徴的なパビリオン「風の葉」には真庭市蒜山ミュージアムが隣接している。

小川氏庭園 環翠園

茶亭 南山荘
（小川氏庭園 環翠園）

名園の数々

庭園にも優れたものが多い。代表的なのが小川氏庭園 環翠園。神戸の庭師・巽武之助が手掛けた、県の名勝、国の記念物に指定・登録されている名園で、酒造、製糸などで財を成した小川家の庭園。同じ巽が手掛けた丸井氏庭園も新たに国記念物に登録された。県指定の名勝にはこのほか桑田氏庭園、高田氏庭園もあり、往時の倉吉の町民の勢いを物語る。

倉吉は江戸時代中期以降、稲扱千歯と倉吉絣などの生産を中心に商工業都市として発展し、打吹山のふもとの本町通り沿いに商人が屋敷を構えた。

赤褐色の石州瓦の屋根と、白壁の土蔵と石橋が連続する玉川沿いを含めた地域は1998年に「倉吉市打吹玉川」地区として国の重要伝統的建造物群保存地区（伝建地区）に選定されている。

ARCHITECTURAL HIGHLIGHTS

まちを彩る建築

倉吉市役所本庁舎

旧牧田家住宅（倉吉淀屋）

倉吉大店会 旧国立第三銀行倉吉支店
（現在はレストラン・カフェ「白壁倶楽部」として営業）

旧明倫小学校時代の円形校舎
（1959年9月）

長谷寺

旧倉吉町水源地ポンプ室

飛龍閣

文化財が多数

伝建地区も含めた周辺には桑田家住宅、高田家住宅、さらに小川家住宅といった県指定保護文化財の貴重な建物が残り、市指定文化財の旧牧田家住宅（倉吉淀屋）主屋は1760年に建てられた市内最古の商家建築。このほか旧国立第三銀行倉吉支店の建物である倉吉大店会（現白壁倶楽部）、豊田家住宅、大社湯、旧倉吉町水源地ポンプ室、旧高多家住宅など多くの建物数が国有形文化財に登録されている。

市のシンボル・打吹山の中腹にある長谷寺には県の保護文化財の本堂内に室町時代後期の厨子があり、国の重要文化財に指定されている。同じく打吹山中腹の飛龍閣（国登録有形文化財）は明治時代、当時の皇太子（後の大正天皇）行啓の際の宿泊所として建てられた和風建築だ。

優れた近代建築も

打吹山のふもとにある倉吉市役所本庁舎は、東京都庁、代々木体育館などを手掛けた丹下健三の設計で、水平線を強調した外観などが丹下の初期の庁舎建築の特徴をよく表す国の登録有形文化財。

文化財には指定・登録されていないが「円形劇場くらよしフィギュアミュージアム」も優れた建物で、1955年完成の旧明倫小学校校舎。坂本鹿名夫が全国で数多く手がけた円形建築のうち最初期の建物として、現存するものとしては日本で最も古い。老朽化などから一時は取り壊しが決まったが、地域の人たちが保存に取り組み、2018年にフィギュアミュージアムとして開館した。

ポップカルチャーのまち・倉吉

白壁土蔵や赤瓦の家並みなど懐かしさを感じさせるレトロ感が魅力の倉吉だが、
ポップカルチャーを活用したまちづくりが進むまちでもある。
市内のあちこちにキャラクターのパネルやフィギュアが置かれているのが見られ、
それらを目当てに倉吉を訪れる人も多い。

グッドスマイルカンパニー

きっかけになったのが2014年のグッドスマイルカンパニー楽月工場の進出。フィギュアなどの企画・製造を行う国内トップ企業が国内初めての自社工場を倉吉に新設した。15年には同社の「ねんどろいど」シリーズなどを一堂に紹介する「フィギュア博覧会」が倉吉博物館で開催され、1カ月余りで2万人以上が訪れた。生産は軌道に乗り、25年には第2工場を新設して生産を増強する。

円形劇場くらよし フィギュアミュージアム

現存するものとしては国内最古の円形校舎である旧明倫小学校校舎を活用して2018年に開館した（建物については「倉吉を彩る建築」参照）。円柱形というユニークな外観、中央にらせん階段を配した構造などを生かし、グッドスマイルカンパニーやフィギュアの老舗・海洋堂などの協力を得てフィギュアの展示施設となっており、人気キャラクターや恐竜、動物などのフィギュアがずらりと並ぶ。

©Konami Digital Entertainment

ひなビタ♪

『ひなビタ♪』は、株式会社コナミデジタルエンタテインメントが2012年から楽曲展開を主としたキャラクターバンドコンテンツで、架空の地方都市・倉野川市が舞台。そのまちの5人の女の子が「音楽の力でまちに活気を」とバンドを結成するストーリー。この倉野川市が「歴史的な背景や町並みが倉吉に似ている」と話題になり、16年には全国で初めて、架空のまち・倉野川市と倉吉市が姉妹都市提携をすることに。倉吉では登場するキャラクターの誕生日ごとに誕生祭が開かれ、倉吉を訪れるひなビタ♪ファンたちを市内の多くの飲食店などが「お帰り」「ただいま」と迎え続ける。

©倉吉八犬伝 / 倉吉観光MICE協会

倉吉八犬伝

江戸時代の長編小説「南総里見八犬伝」。そのモデルとなった里見氏の最後の当主・忠義は安房国（現在の千葉県）から転封された倉吉で没した。大岳院（東町）に葬られた忠義に殉じた8人の家臣の戒名に「賢」の文字が入ることから「八賢士」と称され、「八犬士」のモデルになったのではという説がある。倉吉と八犬伝のつながりを基に、八犬士が現在にタイムスリップしたとの設定で創作されたのが「倉吉八犬伝」だ。

画像提供：牡丹団

コスプレイベントも

倉吉ではアニメキャラクターや歴史上の人物などに仮装するコスプレイベントも開かれている。コスプレを中心にポップカルチャーでまちを盛り上げようと活動するせきがね牡丹団は、倉吉観光MICE協会などとも連携しながら年に数回のイベントを開催し、多くのコスプレイヤーが訪れる。

アートのまちづくり

鳥取県立美術館の開館に合わせ、
倉吉ではアートを絡めたまちづくりの動きが進んでいる

巨大な八犬士がお出迎え、紙あかり

倉吉は「南総里見八犬伝」のモデルになったとされる里見氏最後の当主・忠義の終えんの地。それにちなみ赤瓦一号館などには紙と竹で作られた巨大な紙あかりの八犬士像が展示され、館内をほのかに照らすとともに観光客を迎えている。「山陰ＫＡＭＩあかり」の一環として倉吉市の造形作家が２０１３年までに８体を制作。赤瓦一号館に３体、同市関金町の関金都市交流センターに５体が展示されている。

傘をさしてまち歩き

鳥取県立美術館を訪れる人に白壁土蔵群周辺までを歩いて楽しんでもらおうと、倉吉観光MICE協会は市内に無料のレンタル傘を配置して利用してもらう「傘をさしてまち歩き」を展開している。白壁土蔵群周辺や県立美術館、倉吉博物館など計15カ所に約300本の色とりどりの傘を置き、日差しの強い日も雨の日も散策を楽しんでもらうとともに、カラフルな傘でまちを彩ってもらう。

倉吉絣のれんでお迎え

倉吉絣を知ってもらいその魅力を感じてもらおうと、倉吉市中心市街地活性化協議会は、白壁土蔵群周辺の店舗などの入口に倉吉絣のれんを設置する事業を進めている。倉吉の伝統工芸品・はこた人形や市の花・ツバキ、打吹天女などの絵柄があり、市内30カ所の店舗などに掲げられて絣の藍色がレトロな街並みを彩る。

食事もアートで「アート飯」

倉吉商工会議所青年部は県美応援プロジェクトとして、市内の飲食店などと「アート飯」の取り組みを進め、市内では趣向を凝らしたさまざまなアート飯が誕生している。「見ておいしい、食べておいしい」をコンセプトに2022年からスタート。ブラックライトで照らすと光のアートが広がるノンアルコールカクテル「東雲ソーダ」（食事の関所・扇雀）、昔懐かしい「デザートプリン」（モダン）など12店で提供されている。

小学生らも絵で盛り上げ、モザイクアート

鳥取県立美術館を地元から盛り上げようと、「県立美術館と共に歩む中部地区の集い協議会」盛り上げ部会が小学生の絵を使ったモザイクアートを作成し、展示している。部会を構成する倉吉商工会議所青年部、中部中小企業青年中央会、倉吉青年会議所の取り組みで、2018年には倉吉市内の児童の絵約2500枚を使ってヨハネス・フェルメールの「真珠の耳飾りの少女」を、19年には県中部地区の児童から集まった約5千枚を使ってレオナルド・ダヴィンチの「最後の晩餐」を完成。25年には大人も含めた県内外の人の作品を使った3点目も制作された。

仏師が手掛けた「福の神」にあえる街

倉吉にはかつて山本竜門、仲倉裕朋、小谷和上という3人の仏師がいた。そのうち山本、仲倉は亡くなったが、3人が手掛けた仏像彫刻が今も街のあちこちに置かれている。

Kurayoshi : Art Route Model Course

アート周遊モデルコース

『倉吉のアートと歴史を訪ねる』

（所要時間の目安：5 時間）

ＪＲ倉吉駅⇒バスと徒歩⇒**鳥取県立美術館**⇒徒歩⇒バス⇒**倉吉博物館・倉吉歴史民俗資料館**⇒徒歩⇒**小川氏庭園 環翠園（入園は要予約）**

鳥取県立美術館から西側へ進んだ倉吉博物館では、郷土ゆかりの美術作品や歴史・民俗資料を展示。バーナード・リーチなども訪れた小川氏庭園 環翠園の茶亭 南山荘では、貴重な美術品の数々と季節のお菓子・お抹茶が楽しめる（要予約）。

人物埴輪（倉吉博物館）

『現代アートを巡る』

（所要時間の目安：4 時間）

ＪＲ倉吉駅⇒バスと徒歩⇒**鳥取県立美術館**⇒徒歩とバス⇒**アート格納庫Ｍ**⇒徒歩とバス⇒**白壁土蔵群観光案内所**

＊アート格納庫Ｍへの移動は自家用車またはタクシーがおすすめ

アート格納庫Ｍでは原口典之の作品を常設展示するほか、若手や地元作家を中心にさまざまな企画展を開催。

常設展示　左：《Oil and Water》2003年
右：《Untitled FCS》1990年

『野外彫刻満喫コース』

（所要時間の目安：5 時間）

ＪＲ倉吉駅⇒徒歩⇒**倉吉大橋**⇒徒歩⇒**旧国鉄倉吉線上灘駅跡**⇒徒歩⇒**鳥取県立美術館**⇒徒歩⇒**緑の彫刻プロムナード**⇒徒歩⇒**倉吉鉄道記念館**⇒徒歩⇒**倉吉博物館・倉吉歴史民俗資料館**⇒徒歩⇒**白壁土蔵群観光案内所**

＊ＪＲ倉吉駅観光案内所または白壁土蔵群観光案内所のレンタサイクル利用がおすすめ。その場合の所要時間の目安はおおよそ３時間半

左：黒川晃彦《帽子を被ったら歩いてみよう》倉吉大橋東詰親柱
中：澄川喜一《TO THE SKY》彫刻プロムナード（上灘コンフォート北側）
右：青木野枝《しきだい》鳥取県立美術館 入口

見どころぐるっと、便利に周遊！
「うつぶきループバス」

テーマや時間にあわせて、
倉吉のアートを発見する旅に出よう！

『野外彫刻おさんぽコース』

（所要時間の目安：2 時間）

左から淀井敏夫《雲と樹、渡り鳥》、向井良吉《風景中の風景》、池田宗弘《堀の内外 旅人》
緑の彫刻プロムナード 倉吉線鉄道記念館周辺

ＪＲ倉吉駅⇒バスと徒歩⇒**鳥取県立美術館**⇒徒歩⇒**緑の彫刻プロムナード**⇒徒歩⇒**倉吉鉄道記念館**⇒徒歩⇒**白壁土蔵群観光案内所**

オーダーメイドの野外彫刻作品を楽しみながら、鳥取県立美術館～白壁土蔵群まで遊歩道をアート・ウォーキング！

湯村光《Composition》
倉吉パークスクエア食彩館南側

『倉吉の民藝をたどる』

（所要時間の目安：3 時間）

鳥取の手仕事を扱う「民芸TAKAKI」と「COCOROSTORE」。「喜太亭万よし」は棟方志功が命名、店内には直筆の書も。

ＪＲ倉吉駅＝バスと徒歩⇒**COCOROSTORE**⇒徒歩⇒**はこた人形工房**⇒徒歩⇒**民芸TAKAKI**⇒徒歩⇒**倉吉ふるさと工芸館**⇒徒歩⇒**旧牧田家住宅（倉吉淀屋）**⇒徒歩⇒**小川氏庭園 環翠園（入園は要予約）**⇒徒歩⇒**白壁土蔵群観光案内所**

※昼食は「土蔵そば」（民芸TAKAKI 2階）
または「喜太亭万よし」がおすすめ

『倉吉の建物を巡る』

（所要時間の目安：1日）

市内各所に点在する名建築、名園の数々。国登録有形文化財の倉吉市役所本庁舎は丹下健三による設計。

ＪＲ倉吉駅⇒バスと徒歩⇒**鳥取県立美術館**⇒徒歩⇒**倉吉パークスクエア**⇒バスと徒歩⇒**倉吉市役所本庁舎**⇒徒歩⇒**倉吉大店会、白壁土蔵群、高田酒造、大蓮寺**⇒徒歩⇒**豊田家住宅**⇒徒歩⇒**旧牧田家住宅（倉吉淀屋）、大社湯**⇒徒歩⇒**山陰民具**⇒徒歩⇒**円形劇場くらよしフィギュアミュージアム**⇒徒歩⇒**小川氏庭園 環翠園（入園は要予約）**⇒**旧倉吉町水源地ポンプ室**⇒徒歩⇒**白壁土蔵群観光案内所**

＊敷地への立ち入り禁止または建物内部非公開のところもあります

注1）　所要時間は見学、移動を含めたおおよその時間です。
注2）　各施設の見学時間を県立美術館＝約２時間、倉吉博物館・倉吉民俗資料館＝１時間、
アート格納庫Ｍ＝１時間、鉄道記念館＝１５分、小川氏庭園 環翠園＝１時間として計算しています。

倉吉の観光・お土産

レトロな街並み

倉吉市の観光スポットとして外せないのが市街地のレトロな街並み。市のシンボル・打吹山の北側に位置する倉吉の中心地で、玉川に沿って東西に長く広がる9・2ヘクタールが国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

江戸時代に始まった稲扱千歯、倉吉絣の製造・販売が倉吉発展の基盤となり、産業を背景に江戸時代から大正、昭和にかけて今に残る商家や土蔵が建てられていった。こうした建物のうちいくつかは市内唯一の第三セクター・赤瓦一号館から十八号館として土産品店、飲食店などに活用されている。

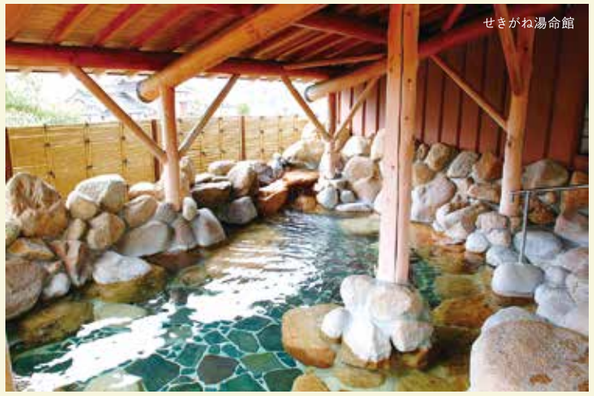
また文化財に指定・登録をされている小川家住宅、旧高多家住宅を宿泊施設として整備する取り組みも進んでいる。

玉川沿いの白壁土蔵

倉吉観光情報

旧国鉄倉吉線廃線跡

かつて倉吉駅から関金の山守駅までの約20キロを結んでいた旧国鉄倉吉線。1985年に廃止されたが、今もレールやホーム跡が残っている箇所がある。このうち関金にある泰久寺駅跡から山守トンネルまでの区間は竹林の中を線路が走る幻想的な風景が広がっており、「日本一美しい廃線跡」とも呼ばれて多くの人が訪れる観光スポットになっている。



せきがね湯命館

関金温泉 せきがねおんせん

市街地から南西に約20分車を走らせた倉吉市関金町には、無色透明な湯から「白金の湯」とも呼ばれる関金温泉がある。現在は温泉旅館1軒と日帰り温泉施設・せきがね湯命館、関の湯共同温泉が営業しており、2025年4月には「星ふるまちのやさしい宿」をコンセプトにユニバーサルデザインや大切な愛犬も一緒に楽しめるドッグフレンドリーを盛り込んだ機能を備えたHOTEL星取テラスせきがねがオープン。

西日本最大級のわさび田、大山を源流とする伏流水で育った関金特産わさび

せきがね湯命館内「白金食堂」で食べられる名物「いわな鉄火丼」

倉吉の特産品、土産品

二十世紀梨

倉吉極実西瓜

打吹公園だんご
(石谷精華堂)

右：元帥酒造
中：倉吉ビール
左：倉吉ワイナリー

倉吉は農業の盛んなところで、さまざまな農畜産物が生産されている。

中でも人気は梨。二十世紀や新興、王秋などのほか、新甘泉、秋栄などの鳥取県オリジナル品種が8月から11月にかけて出荷され、お土産品としても人気。

夏は倉吉スイカがお勧め。6月下旬頃から7月上旬頃まで出荷される。中でもスイカ本来の味と食感を楽しむことができる「倉吉極実西瓜」は人気。5月から6月にかけては倉吉プリンスメロンも出荷される。

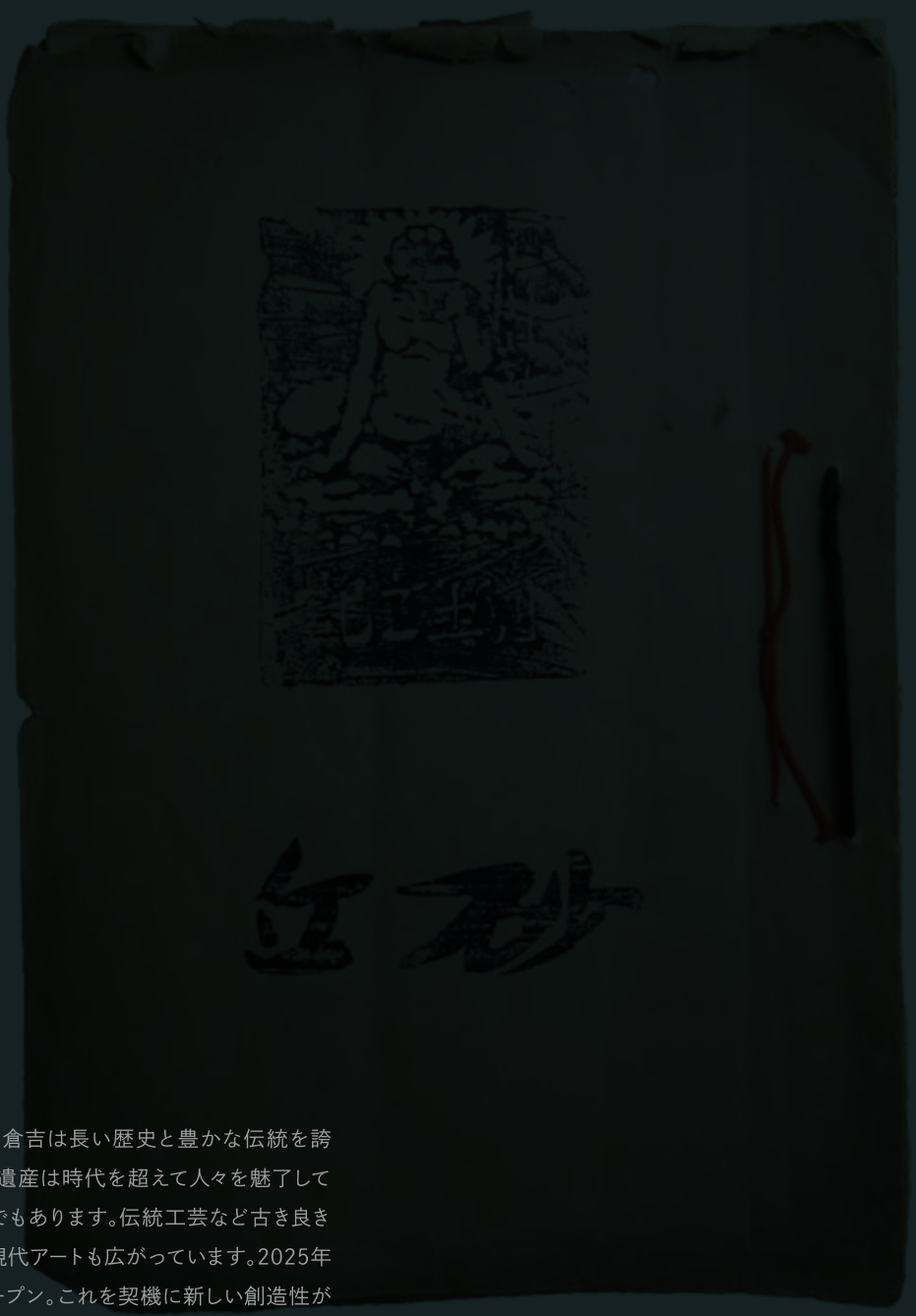
このほか全国に名高い鳥取和牛の産地でもあり、牛骨でだしを取った牛骨ラーメンは倉吉市民のソウルフード。

倉吉のお土産の代表と言えば「打吹公園だんご」。素朴な三色のだんごで、観光客にも大人気。「元帥」「八潮」「此君」などの日本酒や倉吉ワイナリー、倉吉ビール、ウイスキー「倉吉」など酒類も豊富で、こちらは現地で楽しむも良し、お土産にしても良し。

倉吉市内では各店こだわりの牛骨ラーメンを堪能できる

「これは藝術を愛するものの集まりだ」
「文藝や音楽をやっていいし、
又おおいにやろう」
「藝術は持ちうる限りの實生活であり
生命であり宗教でもあるのだ」
「藝術は寂しい日のなぐさめである。
寂しい魂のすくいだ。」

—『砂丘創生之記』河本緑石による宣言文より



鳥取県中部に位置する倉吉。倉吉は長い歴史と豊かな伝統を誇り、その美しい街並みや文化遺産は時代を超えて人々を魅了してきました。倉吉は芸術のまちでもあります。伝統工芸など古き良き文化が大切に守られる一方、現代アートも広がっています。2025年春には鳥取県立美術館がオープン。これを契機に新しい創造性が育まれ、訪れる人々に感動とインスピレーションを与え続けます。
（文中の敬称は略しています）

倉吉アート探訪

《制作・発行》倉吉市 経済観光部 観光交流課、（一社）倉吉観光MICE協会（TEL 0858-24-5371）
《協力》鳥取県立美術館、倉吉市、倉吉博物館

KURAYOSHI TOTTORI